

医療法人聖峰会

年報

第22号(令和5年)

2023

地域のために 地域とともに

私たちの理念

地域のために

地域とともに

あふれる愛 限りない夢 燃える心 かけがえない生命

令和5年(2023年) 聖峰会年報の発行にあたって

聖峰会の年報は2001年、現・副会長の鬼塚英雄が院長時代に発刊を開始しました。途中、ペーパーレス(電子化)していましたが、そのため職員を含め皆様の目に触れる機会が極端に少なくなり、やや質の低下にもつながった感がありました。

そこで、今回、2023年度の年報からホームページにアップし、より多くの方々の目に触れやすくすることで、内容の充実と質の向上を図った次第です。

さて、医療法人 聖峰会では令和5年は「耳納メディカルバレーのセンター」となることを目指して、以下の4つの基本方針を掲げ、取り組みを行いました。

1. 地域包括ケアシステムの確立と、その中心的な役割
2. DXの推進
3. 無理なく、無駄なく、かつ効率よく働くための働き方改革
4. 感染、災害に強い組織作り

そのうち特に本年度、重大な意味を持った2つの方針進捗についてお伝えします。

・「DXの推進」については、令和5年4月の電子カルテの更新があげられます。今回の更新は7年ぶりの更新ですが、医療の効率化と介護事業所との情報共有を目的としたもので、更新計画開始から1年半をかけてのプロジェクトでした。3月末に無事導入完了し、徐々に効果が得られています。DXについては、今後の労働人口減少を見据え、今後も積極的に取り入れる所存です。

・「感染、災害に強い組織作り」については、令和5年7月10日の梅雨末期の線状降水帯発生により、久留米市東部は100年に1度とも言える豪雨に見舞われ、田主丸中央病院とサンライフ聖峰、グループホームひまわり館が約30cmの床上浸水被害を受けました。この災害により、病院の殆どの医療機器類や改装したばかりのサンライフ聖峰において、甚大な被害を受けましたが、ボランティアの方々のご支援や職員の奮闘により、被災後1週間で外来診察を再開、半年後の12月には被災前水準の医療を提供できるまで復旧を行うことが出来ました。

今回の被災を受け、聖峰会では100年に1度の豪雨でも浸水しない病院作り、被災した場合に備えた各種訓練や備蓄品等の充実、BCPの見直し等を行い、災害拠点病院としての役割をしっかりと果たせる備えを進めまてまいります。

医療法人聖峰会は令和6年には設立70周年を迎えますが、今後の聖峰会の存続・発展のため、DX化の推進や職員自身の多能化を進め、時代を先取りした組織態勢を整備して行く所存です。そして、より安全な医療の提供と医療情報の地域還元により、これからも地元になくてはならない病院としての役割を果たしてまいりますので、今後ともご支援のほど、宜しく願いいたします。



理事長：鬼塚 一郎